運動方程式

一微分方程式としての運動法則一

目次

- 1.微分方程式とは何か
- 2.微分方程式の一般解、特殊解とそれらの意味
- 3.傾きαをもつ直線の集合を表す微分方程式
- 4.円の集合を表す微分方程式
- 5. 楕円の集合を表す微分方程式は?
- 6.変数分離形の微分方程式
- 7.微分方程式としての運動方程式
- 8.カが一定の場合
- 9.力が速度の1,2乗に比例する場合
- 10.フックの力の場合(変位に比例する復元力)

Made by R. Okamoto (Kyushu Institute of Technology) filename=eq-of-motion-as-diff-eq100427.ppt

1. 微分方程式とは何か

未知の関数の微分係数を含む方程式

微分方程式の解法=積分すること

1回積分するごとに未定の積分定数が現れる

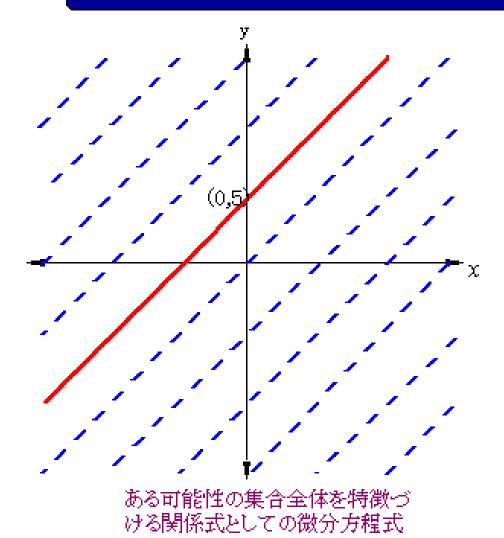
微分方程式=必然性(法則)、可能性の集合



現実化(現象化)

2.

微分方程式の一般解と特殊解 それらの意味



あらゆる点において 傾き1のグラフを決める **微分方程式**

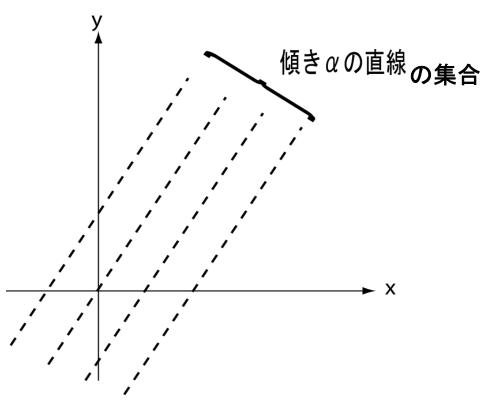
$$\frac{dy}{dx} = 1$$

一般解 y= x+ C C:積分定数

点(0,5)を通過するという 境界条件を満たす**特殊解** y= x+5

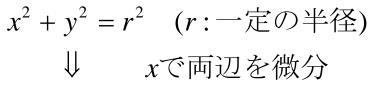
3. 傾きαをもつ直線の集合を表す微分方程式

$$\frac{dy}{dx} = \alpha \, (-定値) \Leftrightarrow \quad y = \alpha x + c \, (c:積分定数)$$



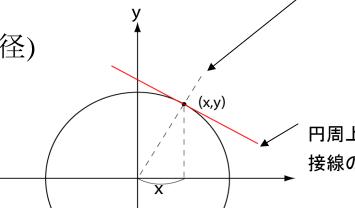
4. 円の集合を表す微分方程式

傾き^yの直線



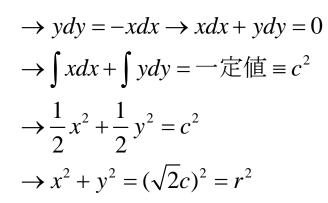
$$2x + 2y\frac{dy}{dx} = 0$$

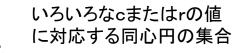
$$\rightarrow \frac{dy}{dx} = -\frac{x}{y}$$



円周上の点(x,y)における接線の傾き $\left(-\frac{x}{y}\right)$

直交







5. 楕円の集合を表す微分方程式は?

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1 \quad (a \neq b : -定)$$

$$\downarrow \qquad x$$
で両辺を微分
$$\frac{dy}{dx} = -\frac{x}{y} \times \left(\frac{b}{a}\right)^2$$

6. 変数分離形の微分方程式

$$\frac{dv}{dt} = -kv \qquad (v(t): 未知関数、 k > 0: 一定)$$

$$\rightarrow \frac{dv}{v} = -kdt \rightarrow \int \frac{dv}{v} = (-) \int kdt \ (積分は和である!)$$

$$\rightarrow \log_{e} |v| + c_{1} = -kt + c_{2} (c_{1}, c_{2}: 積分定数)$$

$$\rightarrow v = \pm e^{c'} \cdot e^{-kt} \rightarrow v = c \cdot e^{-kt} \ (c' \equiv c_2 - c_1, c \equiv \pm e^{c'})$$

一般解(general solution)

初期条件: t = 0のとき, $v = v_0$ (一定値)とすると

(注意: 初期条件は微分方程式とは独立である) *
$$v(t) = v_0 e^{-kt}$$
 公式 $\int \frac{1}{x} dx = \log_e |x| + C(C: 積分定数)$

特殊解(specific solution)

(微分方程式の種類により、一般解の中に含まれない解(特異解)を含む場合)

7.微分方程式としての運動方程式

$$ma(t) = F(x, v; t)$$

(ここでは1次元の場合を考える)

$$\rightleftharpoons m \frac{d^2 x(t)}{dt^2} = F(x, v; t)$$

質量x加速度=外力

- 1)外力Fの関数形は問題ごとに与えられるが、時間tの関数としての位置、速度の関数形が未知である
- 2) 力は、粒子の位置、速度、時間に依存しない一定の場合もあるが、 位置や速度、時間に依存して変化する場合もある!

$$m\frac{dv}{dt} = F \leftarrow v = v(t), F = F(x, v; t)$$
 at any (x, t)

$$m\frac{d^2x}{dt^2} = F \leftarrow x = x(t), F = F(x, dx/dt; t) \text{ at any } (x, t)$$

未知の関数としての位置や速度の微分係数を含む方程式 =微分方程式

8.力が一定の場合

実例:地表付近における重力

一般には、重力は粒子(物体)間の 相対距離に依存して変化する!

 $F = \text{constant value} \equiv F_0$

$$\rightarrow m \frac{d^2x}{dt^2} = F_0 \rightarrow \frac{d^2x}{dt^2} = \frac{F_0}{m}$$

$$\rightarrow \frac{dx}{dt} = \left(\frac{F_0}{m}\right)t + v_0 \left(v_0: 積分定数\right)$$

$$\rightarrow x = \frac{1}{2} \left(\frac{F_0}{m} \right) t^2 + v_0 t + c \ (c: 積分定数)$$

9.力が速度の1,2乗に比例する場合

$$m\frac{d^2x}{dt^2} = -kv$$

$$\rightarrow m\frac{dv}{dt} = -kv \quad (v \equiv \frac{dx}{dt})$$

$$\rightarrow \frac{dv}{dt} = -\gamma v \quad (\gamma \equiv \frac{k}{m})$$

実例:微粒子がゆっくりと流体中を 移動する場合の粘性抵抗力 (ストークスの[経験的]法則)

変数分離型の微分方程式

$$m\frac{d^2x}{dt^2} = -\beta v^2$$

$$\Rightarrow m\frac{dv}{dt} = -\beta v^2$$

$$\Rightarrow \frac{dv}{dt} = -\delta v^2 \quad (\delta = \frac{\beta}{m})$$

実例:物体が高速で流体中を 移動する場合の慣性抵抗力 (ニュートンの[経験的]法則)

変数分離型の微分方程式

10.フックの力の場合(粒子の釣り合いから変位に比例する復元力)

$$m\frac{d^2x}{dt^2} = -kx$$
 変数分離型の微分方程式

一般解

$$x(t) = A \sin(\omega t + \theta_0)$$
, A, θ_0 :積分定数 or $x(t) = A \cos(\omega t + \theta_0)$

解を元の微分方程式に代入すると、満足することがすぐわかる。(必要条件) 逆に、微分方程式の両辺に速度vをかけて、積分し、平方根をとり、ある 積分公式を用いると、一般解の関数形が直接に得られることも示すことができる! (十分条件)